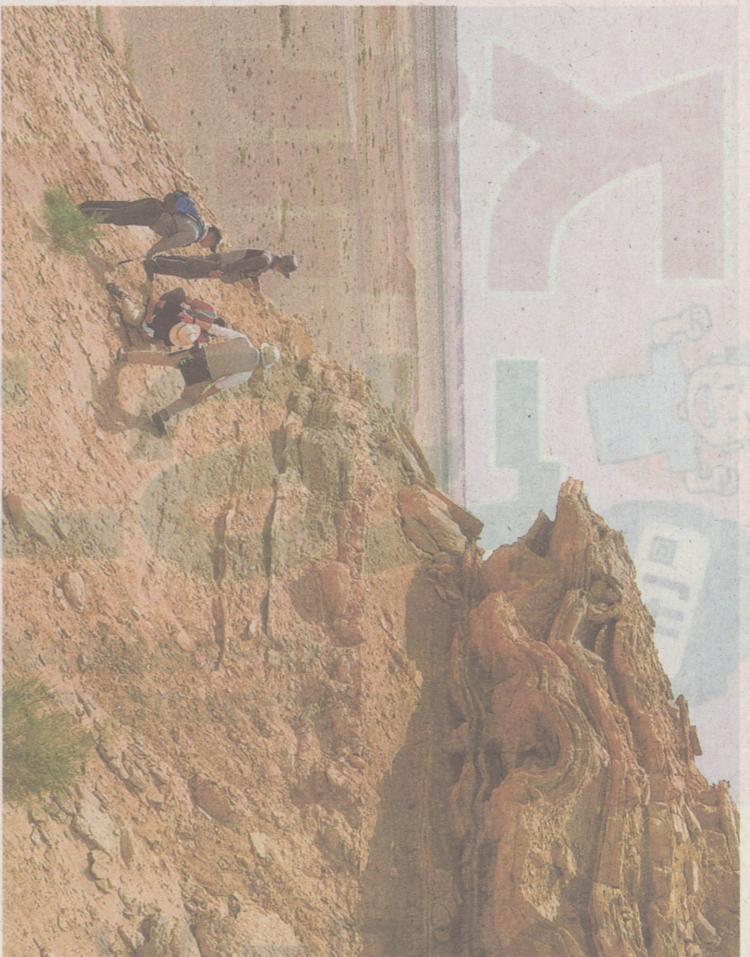


岡山理科大の学生たちは、西アフリカのモロコルで、古生物学研究を行っている。そこで、彼らが何を調査しているのか、その目的や意義について、岡山理科大学の吉田吉也教授に話を聞いた。



共同研究は平和をつくる

私は日本人の研究者にはいつも一緒に協力を進めることで、世界平和をめざす。恐竜研究とともに一つが、互いの文化や習慣を理解する。恐竜研究を通じて、私はとても大事なことがあります。それが、一緒に話しています。モンゴルの研究者とともに、一緒に研究をやる。そして一緒に発展していく。それが、国際共同研究の良いところです。

貴先生と一緒に研究します。夏の調査成績を、論文にするのも大きな仕事。論文はすべて日本人で書かれています。数名ともゴル人多数の共著です。



私が、実は深くつながっています。恐竜研究を通じて、私はとても大事なことがあります。それが、国際共同研究の良いところです。そして一緒に発展していく。それが、国際共同研究の良いところです。



私が、実は深くつながっています。恐竜研究を通じて、私はとても大事なことがあります。それが、国際共同研究の良いところです。

日本とモロコル国を超えた協力

岡山理科大教授・石垣忍

「恐竜調査隊が行く」

豆知識

林昭次先生の研究テーマの一つはアンキロサウルス類の体の中の骨と、体の表面をおおっている骨板のこまかなる構造を頭微鏡で観察して、恐竜の成長を調べることです。頭から尾の先まで、ごつごつのイメージですが、子どものうちはそうでもないことがわかつてしましました。